

## 事業活動で生じる環境負荷の低減

### マネジメントアプローチ

重要と認識し取り組む理由	リスク	機会	PPIHの対応
<p>PPIHグループは、地球環境保護、生物多様性の保全、気候変動への対応は企業の持続的な発展、中長期的な企業価値向上のための重要課題と認識し、さまざまなリスクへの対応を検討しています。</p> <p>また、持続可能な成長を実現していくには、環境負荷の少ない商品・サービスの提供と店舗開発の推進に努めていくことが重要であると考えていることから、「循環経済社会」の実現にも貢献していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物や環境課題における規制強化の対応に関わるコスト増加</li> <li>● 気候変動による異常気象（台風・干ばつ・熱波・寒波・豪雨・豪雪）に伴う店舗・物流網への物理的損害</li> <li>● 漁業など天然資源の枯渇による原材料仕入れの困難化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネや廃棄物削減、食品リサイクルループによる資源の有効活用、企業イメージの向上</li> <li>● 環境配慮型商品の販売によるエシカル消費の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クリーンエネルギー導入による電力消費削減</li> <li>○ リサイクルステーションの設置</li> <li>○ 事業所のごみ分別強化による一般廃棄物削減</li> <li>○ オリジナルPB商品「eco!on」の販売</li> <li>○ 養殖魚を仕入れることで、天然資源を保護すると同時に、商品の安定供給と安定価格の確保</li> <li>○ オフプライス事業</li> </ul>

#### FOCUS

### 環境配慮型オリジナル商品「eco!on(エコオン)」

PPIHグループは、製品が環境に与える影響を強く認識し、信頼性や安全性と同様に、製品の環境品質の向上に努めています。

PPIHグループが手掛けるPB商品「eco!on(エコオン)」は、商品開発のコンセプトに「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」の観点を持ち、脱炭素社会に向けた資源の利用や商品企画を行い、すべての生物が住み続けられる地球環境を守ることを目的に開発しています。PPIHグループは、これらの商品を選んでくださるお客さまとともに、エシカル商品の販売を推進し、環境に配慮したお買い物を提供しています。

2021年  
6月期

年間売上高  
**21億3,598万円**

年間販売数  
**904万点**

**eco!on(エコオン)一部商品のご紹介**

- 地球にやさしい再生紙100%のトイレトーパーです。
- 原料の一部に店頭で回収した牛乳パック類を使用しています。
- 牛乳パックをコーティングしているポリエチレンは工場内の熱エネルギーに再利用しています。



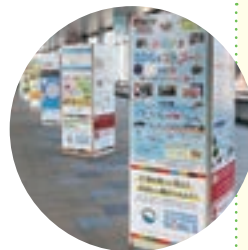
**サステナブルインサイト**

パーজনバルブ(木製チップからつくった紙)を使用した場合に比べ、1個当たり**63%のCO2削減**



#### Pick Up おおがきSDGsストリート2021に参加

アピタ大垣店(岐阜県)は、地域の環境活動パートナーである大垣市環境市民会議主催の「おおがきSDGsストリート2021」に参加し、ユニーの環境配慮型オリジナル商品「eco!on(エコオン)」を紹介しました。大垣駅南北自由通路(水都ブリッジ)に大型パネルを展示し多くの人に見ていただいたほか、週末にはアクアウォーク大垣店内に催事場を設け、環境活動を紹介するフォトムービーの上映やパネル展示により、ご来店されているお客さまに向けて、SDGsを学び、暮らしに取り入れる提案を行いました。今後もアピタ大垣店はSDGsの目標達成の一助となるべく、地域やお客さまとともに活動に取り組んでまいります。



#### 貢献可能なSDGs

**12** つくる責任  
つかう責任

**12.5** 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

#### 関連するSDGs

**13** 気候変動に具体的な対策を

**17** パートナースHIPで目標を達成しよう

### 活動施策

マテリアリティ	アプローチ	具体施策	
		施策項目	概要
脱炭素社会の実現に向けた取り組み	CO2排出量削減	省エネ機器の導入	● 店舗の空調設備や冷蔵・冷凍ケースを効率よく運転する「省エネ機器」を導入
		脱プラスチックへの取り組み	● 使用済みプラスチック製容器包装を回収し、再資源としてリサイクルを実施 ● レジ袋の有料化を開始し、マイバックの推奨とレジ袋削減
		再生可能エネルギーの活用	● <b>一部店舗において太陽光発電を導入</b>
循環型社会の実現に向けた取り組み	容器包装削減、資源の有効活用、食品廃棄物削減・リサイクル強化	食品リサイクルループの構築	● 廃棄物を再生資源としてリサイクル ● 地域循環・地産地消で生産者と消費者をつなぎ、安全・安心な農畜産物を提供
		廃棄物削減・リサイクル推進	● 古紙回収リサイクルステーションの設置

#### FOCUS

### 再生可能エネルギーの活用

PPIHグループは、脱炭素社会の実現をめざし、グループ全体の温室効果ガスの排出削減の着実な実践に努めています。

具体的には、事業活動を通じて排出されるCO2排出量を削減するため、一部店舗において太陽光発電を導入しています。将来のエネルギー源としての再生可能エネルギーの実効性を検証し、環境負荷の少ない事業活動を推進していきます。

導入店舗数(2021年9月現在)

ドン・キホーテ **3**店舗、ユニー **7**店舗、UDリテール **2**店舗



MEGAFON・キホーテ甲府店

#### 主要環境データ

環境課題	データ項目	2020	2021
気候変動	CO2排出量(t-CO2)	559,467	<b>534,307</b>
	CO2排出量原単位(売上高 百万円当たり)	0.356	<b>0.347</b>



#### さらなる強化に向けて

2021年7月1日より環境対策及びサプライチェーン・マネジメントの活動を強化する「サステナビリティ委員会」を新設し、各分科会において取り組みを進めています。環境対策分科会では「気候変動」緩和に向けた重要なリスクの特定及び機会の創出に対応するシナリオ分析や、「CO2排出」削減のための対策や計画を議論するなど、さらなる事業活動で生じる環境負荷低減に努めています。

